

## 平成27年度 第2回 小牧市文化財保護審議会

日時：平成28年2月19日（金） 午前10時～11時50分

場所：小牧市役所 東庁舎1階 会議室1-1

出席者：〔委員〕池田会長、藤岡委員、入谷委員、後藤委員、小野委員、  
越川委員、村松委員、西川委員

〔事務局〕大野教育部長、舟橋教育部次長、村田文化振興課長、  
浅野文化財係長、坪井主査

欠席者：〔委員〕増田委員

傍聴者：なし

### ○事務局

定刻になりましたので、早速ではございますが、ただいまから平成27年度第2回小牧市文化財保護審議会を開催させていただきます。

本日は、御多忙のところ御出席を賜りましてまことにありがとうございます。なお、増田委員におかれましては、欠席の連絡が事前にごございましたので御報告申し上げます。

あと、この会議は小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開するものとさせていただいております。本日、傍聴の方はございません。しかし、議事録また発言内容、お名前等につきましては、ホームページまたは情報公開コーナー等で公表させていただきますので御承知おきください。

それでは初めに、教育部長の大野から御挨拶を申し上げます。

### 1 あいさつ

### ○大野教育部長

こんにちは。教育部長の大野と申します。

本日は、お忙しい中当審議会に御出席いただきましてまことにありがとうございます。

本来なら、教育長の安藤が御挨拶申し上げるところでございますが、ほかに公務が入っておりますので、私から挨拶させていただきます。

昨年7月に本審議会委員の任期更新という時期がございまして、それまで委員をなさってみえた2名の方が御退任になりまして、5名となったわけでございます。その

後、私どもで新しい委員さんにお声がけをいたしまして、1月26日付で、小野委員、越川委員、村松委員、西川委員の4名の方が新しく加わっていただけることになりました。快くお受けいただきまして、まことにありがとうございます。よろしく願いいたします。

本日は、小牧市の指定文化財候補物件として従来から継続して御審議いただいております田縣神社豊年祭の答申について報告があるということでございます。このまま指定が進みますと、市内では貴船神社のアベマキが平成22年3月に天然記念物として指定して以来、約6年ぶりの文化財指定となります。

有形無形にかかわらず、文化財を維持保護していくことは指定後のほうが大変な面もございますが、活用することによりまして、市民にとって地域への愛着が醸成され、また文化財への関心がさらに高まっていくことになればと思っております。そのために、皆様のお意見を賜りまして、本市の文化財保護行政を進めてまいりたいと思いますので、今後もよろしく御協力のほどお願い申し上げます。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

## 2 会長あいさつ

### ○事務局

続きまして、池田会長、御挨拶をお願いします。

### ○池田会長

初めまして、池田でございます。よろしく願いいたします。

若輩者ですけれども、ここで会長を務めさせていただきますので、よろしくお引き回しのほどお願いいたします。

本日は、とにかくとてもお忙しい中を皆さんにお集まりいただきましてありがとうございました。

それから、先ほど大野部長からお話もありましたように、長年かかっておりました田縣神社のお祭り、豊年祭に関しまして、指定に向けて一応答申ができましたので、皆様の御活動に対しまして本当に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

久しぶりの会議ですけれども、まずその報告を聞きますと同時に、現地調査等の日程について決めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

### ○事務局

ありがとうございました。

先ほど部長からの挨拶にもございましたように、4名の委員の方に新たにお加わり

いただきました。今後ともよろしく願いいたします。

任命状につきましては、略式ではございますがお席に置かせていただいておりますので、御承知おきください。また、従来からの委員さんにつきましても、任期更新後初めての会議となりますので、任命状におきましては机に略式で置かせていただきましたのでよろしく願いいたします。

### 3 自己紹介

委員、事務局職員自己紹介を行う。

### 4 報告

#### (1) 市指定文化財候補物件について

事務局から、田縣神社豊年祭の御輿行列（お練り）について、文化財保護審議会から教育委員会への答申について、各委員に確認してもらった文案で答申することを報告。

○池田会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明につきまして、あるいはこの答申書につきまして、何か御質問等がございましたらお願いいたします。

私ども民俗の専門ではなかったのですが、今日は越川先生が民俗で入られましたので、ひとつこれに関しまして何かございましたらぜひとも御意見いただきたいんですが。

○越川委員

いきなりぽっと入ってきたもので。

○池田会長

済みません、申しわけないですけど。

○越川委員

これにつきましては少しお話をお伺いしましたがけれども、相当な時間をかけられて研究調査、議論等されて。この田縣神社のお祭りは全国的に有名ですし、指定されるのは非常に喜ばしいことだと僕自身は喜んでおります。

特にここに書かれていることでどうこうというのは全くありません。

○池田会長

特に何か。御意見がないようでしたら。

よろしいですか、先生方。いいですか。

○事務局

前回の会議で、この田縣神社にあります奉納物ですとか出土品など、入谷先生からまた調査をしてはどうかというお話がありまして、それにつきましては今後調査をいたしまして、文化財保護審議会からこれについては指定に持って行ってはどうだというものがありましたら、田縣神社さんに投げかけましてやっていくことになりましたので、その調査につきましてはまた今後よろしくお願ひしたいと思います。

○池田会長

ありがとうございました。

それでは、特に御意見もないということになりましたので。

5 議題

(1) 現地調査について

○事務局

候補として、賢林寺、日吉神社のクスノキ、岸田家、西町の稲荷堂、久保寺、小松寺、大草のマメナシ自生地を挙げた。

日程について、3月29～31日のうちのどこか1日ということになり、後日決定して各委員に連絡することとなった。

○事務局

先方の御都合もお伺いしながらですので、それも含めまして、特にこれ以外にもというものがなければ、今日候補地として挙げさせていただいたものを中心に事務局で決めさせていただきたいと思いますが。

○池田会長

何か、ごらんになってこことかって。建造物とか。

本当は小松寺の本堂は行けばいいのかな。

○西川委員

稲荷堂って以前も見ましたよね、この会で。見るたびに多分ひどくなっていくと思うんだよね。要するに、どんと予算をかけん限りは、直りようがないんだよね。だからその辺は、見に行けばまた残念がって、これはいかんという思いは確認できるけれども、どうしようもないんだよね。

○池田会長

稲荷堂は、名古屋の建中寺の拝殿を移動したものであって、皆さんの頭の中には、

実はあの中にきれいな鳳凰の絵があると頭にあるんですが、消えてなくなっております。なので、指定解除してもいいぐらいかもしれない。建物だけ残るので、中身なしになってくるような感じですね。絵画作品、天井画まだ若干残っていますけれど、厳しいところですね。

それから、これを保持する団体がきちんとしていないということもありますので、今後ここはどうしていくのかきちんとしていかないと。ここの中で、とても大きな問題だと思って。例えばNPOか何かがお金を出して何かするとかっていろいろおっしゃるところもあるんですが、そういうのもすごく反対されて、進んでいないんですよ。ここをただ指定するだけじゃなくて、今後どういうふう to それを守っていくのかということも一つありますので、悔しい思いをするだけということもありますけれども、じゃどうしたらいいのかみたいところで、これは別に案として、何か案があればおっしゃっていただきたいところがあります。

稲荷堂に関しましてはそんなもんです。本当にもったいないなところがあります。後世に残してあげて、こんなのが本当に江戸時代につくられたんだよということがわかればいいと思われる建築物でした。しかも、それを小牧がもらって、大事に、いかに名古屋の徳川家との関係があったのかがわかるものだということです。このところで重要なものだという関係がございます。

岸田家住宅は、別に修理とかそういうものはないですよ。

#### ○事務局

その後は特には。

#### ○池田会長

きれいに直っているし、お隣さんもいなくなったし。

#### ○事務局

ちょっとやっぱり建てつけが悪くなったりとか、多少落ち着いた状態で雨戸の動きが悪いとかいうことはありますけれども。大きく何か壊れたとかいうことは全然ございません。

#### ○池田会長

という状態だそうなので、あとは、向こう側の許可もありますので、一応これだけ出しておきまして、相手の所有者とか保持者の方が見てもいいよとおっしゃってくださったら、そこで行くことにして。

とりあえず賢林寺から頑張ってマメナシまで計画だけ立てておきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、こちらのほうではそういうことです。

現地調査の候補は、この中から向こうのオーケーが得られたものにするという形です。

よろしいでしょうか。

ほかに特に御意見は。

見てみないと。はっきり言って、初めての。私も初めて何があるのかわからないと  
いうことがありますので、ざっとでもいいから、とりあえず見に行くという形で願  
いしたいと思います。よろしくお願いします。

## 6 その他

### ○池田会長

それでは、議題（1）は終わりました、その他に入りますが、事務局から報告、連  
絡事項よろしくお願いたします。

### ○事務局

小牧山整備で計画されている（仮称）史跡センターについて説明。

### ○池田会長

ありがとうございました。

それでは、この報告だけですので、特に。

何か感想でもございますか。

先生、何かありますか。

### ○藤岡委員

1点だけ。

この史跡センターというか、米軍がブルドーザーやったりだとかってことはあ  
るんだけど、かなりいい意味で裏切られている。掘れば「えっ、こんなところから」  
みたいな部分があるので。校舎なんかを建てた間のところの部分についてはトレンチ  
調査を入れてもらって、やっぱり崩されて何にもないよねっていう確認だけしてもら  
えるといいのかなって。建物を建てちゃった後は何ともならんのでということは。

### ○事務局

実は、小牧山専門委員会の中でもどうだという話が出てまいりまして、その中でも  
ここの部分は完全に破壊されているというお話で、専門委員会の中で話がまとまりま  
した。

ただ、小牧中学校を建てた基礎の部分より下は行かないように。ボーリング調査は  
やるんですが、それより下には行かないように、杭も打たない、面で支える構造の建

物でやっていく形で考えているところではあります。

○藤岡委員

要望で、できたらその校舎と校舎の間だろうと思われるところに一本だけでも確認みたいなことをやってもらおうと、「ああ、ここはやっぱりまだ残っている部分としてはあるんだろうね」とか「やっぱり考えたとおりにないぞ何にも」っていうことは一応入れておいてもらったほうが。後になって、ここは何もないのを想定で掘ったら、「ありゃりゃ、こんなところから出てきちゃってこんにちは」みたいな形になっていかないように、ないことの確認だけ一本。そんなにたくさん掘れとかって言うわけじゃないんですけど。溝の形で、それこそこれくらいの幅の一本だけでも入れてもらおうといのかと思うんです。

○事務局

おっしゃるとおり、発掘調査で出すのもありますけれども、ないことの確認というのも当然あると思うんです。

ただ、遺構としては、昭和2年段階での図面での判断ですが、あそこはもともと曲輪があった。山側のところからだんだんと曲輪があったところを、今の本庁舎と一緒にでぎくっと切った上で建てておりますので、専門委員会の中でも恐らく遺構としてはないだろうという判断をいただいております。

ただ、おっしゃることも、深いお堀があるとかいうこともなきにしもあらずなので、そのあたりについては、史跡センターの建物をつくるときの基礎を掘る段階で立ち会い調査という形でしていこうと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○越川委員

ごめんなさい、いいですか。

○池田会長

どうぞ。

○越川委員

僕はもちろんこれ、今聞いた話で全然知らないのでもちょっと教えていただきたいんです、ごめんなさい。

今、この大きいところは建物はなく、この緑の部分がある状態ですか。

全然知らないのでも、ごめんなさい。

○事務局

平面図も何もないので申しわけないんですけども。

小牧山がございます。今整備をしているこの土地は、市役所がここにあるんですが、そのさらに東の位置になります。で、東に、今現在は当時の中学校があったときの

武道場が残ってしまっていて、堀の内体育施設という施設になってはいますが、それがあります。で、その東側が碎石敷きの駐車場になっておりますが、そのあたりにこれを建てるような計画であります。なので、位置的に見ると、このあたりに堀の内体育施設（武道場）があつて市役所があるっていう位置関係にはなりません。

○越川委員

武道場は壊してしまつて、これを新しく建てる形になるんですか。

○事務局

今の堀の内体育施設のところも、本来は土塁がずっと続くような位置に、それを壊して建っていますので、遺構復元も今回の計画の中では考えておりますので、堀の内体育施設も取り壊して、遺構復元、土塁を復元するという計画で今はあります。

○越川委員

この建物の中のイメージとしては、史跡センターでガイダンス施設ということなので、博物館のようなものをイメージしていらっしゃるんですか。

○事務局

あくまでガイダンス施設ということで、博物館ではないと。展示するもの、紹介するものについても小牧山に関するものということで許可をいただいておりますので、例えば民具を置くだとかということは一切できません。小牧山の発掘で出てきた出土遺物ですとか、信長、小牧山に関する情報をお伝えする場所と。ガイダンス施設ということで考えております。

○越川委員

収蔵庫とかも別につくろうとかいう考えも、今のところはないですか。

ごめんなさい。本当に全然知らないのです。

○事務局

どうしても展示の遺物、物は展示しますので、収蔵庫的なものも当然つくる予定をしております。ただ、それも見せる展示ということで、クローズドの部屋の中につくるのではなくて、一般の方が見れるような、見せる展示、収蔵も考えておりますので、それもガイダンス機能の一つということで考えております。

○越川委員

位置づけとしては、博物館相当施設とかいうのではなく、広報施設みたいな感じですか。

○事務局

そうですね。小牧山の最新の情報をお伝えするガイダンス施設ということで考えております。



○越川委員

了解しました。ありがとうございます。

○池田会長

どうぞ。

○入谷委員

今も御意見がありましたけれども、これだけの大きい施設をつくって、しかも国と県と市がお互いに予算を出して市民のものにするわけですので、今も新しい情報が入りましたけれども、私たちは文化財の保護審議会の委員であると。その人たちに相談がほとんどかからずに、もう基本計画で進んでいっちゃうということになると、一体文化財保護委員は何をやっておったんだという意見が出てくるのではないか。

建物の中身が決まっちゃっていれば言いようがないですけども、基本計画の中でガイダンス施設ということも今日初めて聞いたわけです。そういったことがこの保護審議会の委員の中で、教育委員会のレベルまでは達しないとしてもある意味では専門家の方々が集まっているわけですし、しかも私たちはもう何年、僕、数えてみたら委員をやって今年が39年目です。何にも今まで仕事をやっとなんか。

何度もいろんな所の先進施設を回らせていただいて、小牧で生かされたというのが、我々の意見として通ったものは一つもない。ただ、見てきた中で、土塁を切って小牧の土塁はこういうふうにできているっていう、目に見えてはっきりしたのはあそこだけです。

もっといろんなところで感動する、あの施設を、このガイダンスというここにずっと私は期待してきた。そうした中で、それがちっとも開かれてこないし、我々が行ってきたのは、自分の力には物すごくになりました。私はとにかく物すごく感謝しています、小牧の例えば先進地の視察なんかで。あのおかげで僕も、ある意味では文化財の保護審議会の委員として勉強ができた。それを生かす道というのは、今日これで1時間で、あと12時までやるとしても1時間ですけども、やっぱり日を改めて、先進地視察のように1日つくって皆さんで現地を見てきて。これも動かせないものになっておればもう言いようがありませんけれども、そうでなくてまた意見が生かされていくことがあるならば、そうやって皆さんで見て、ここはこういうふうだ、こういうものがあるんだということで皆さんで御意見などももらって。そして、リピーターが何遍も何遍も、小牧へ行くとあれがわかる、これがわかるというものにぜひしていただきたい。そういうことを言ってもあれだけ、後できちんと伝えておいてほしいけれども、そういうことが一番言いたかったわけね。それが今までなかったんだ、はっきり言って。

今の、もう動かせんものなのか。まだ動かせるのであったらもう1日、日にち一日決めるのに御都合が悪い方が大分あるみたいですけども、そういうことをぜひやっていただいて。

今、皆さん方新聞でよく読んでみえるけれども、図書館問題がある意味では大きな問題になっちゃって全国版になっちゃったけれども、同じことで、一つ箱物をつくるときにはみんなの知恵を出さなきゃいけないし、一番その中で文化財の委員はどこかのあれを見せてもらっている。そういうことがあって、やっぱり皆さんに意見を言ってもらおう。今年大分かわられたので全部伝えることはできんかもしれませんが、これ、どうですか。

○事務局

次回視察をしていただくときに、恐らくもう少し詳しい資料がお配りできるかなと考えております。

小牧山をごらんいただくのは、もし先ほどのコースに含めれるのであれば含めて、皆様委員の先生方お忙しいと思いますので、わざわざ改めて1日ということもなかなか難しいのが正直なところ、現実的な話だとは思いますが。もし可能であれば、先ほどの視察コースの中で小牧山も一度ごらんいただければいいのかもしれないと少し思った次第であります。

現在、基本設計をやっております。大まかな形であったり展示の方向性というもの、内容とかいうものは、小牧山整備策定委員会というそちらのほうを専門にしている委員会で大体意見がまとまってきております。昨日もこういう部分は修正するようということで御意見をいただいて、まとまってきております。

なかなか議題として文化財保護審議会にかける議題では正直ございませんので、もし意見として、またその他のほうで策定委員会の状況を報告させていただきますので、御意見があればあわせてお伺いできればとは考えておりますのでよろしくお願ひします。

○池田会長

何かほかに御意見。

○越川委員

素朴な質問ですが、小牧市の市立博物館とか資料館というのはないんでしょうか。

○事務局

今、小牧市歴史館というものが。

○越川委員

お城のところにある。

## ○事務局

それが郷土資料館みたいな形で、小牧市全般を網羅した形であります。史跡センターは、そのうちから、広い意味での小牧山ですけど、小牧山を専門とした部分を紹介するガイダンス施設というイメージをしています。

## ○池田会長

私のほうから。

昨日この策定会議が行われまして、実際にこの中がどんなふうになっているかっていう話もして、どんな展示をするかということもあり。それから、現在これはまだ(仮称)史跡センターという名前であったんですけども、それも、小牧山って今おっしゃったように、小牧山に特化していただいて、とにかく小牧山に関するものだけにさせていただきたいという形をきちんと決めていただきました。つまり、小牧山ということとは織田信長にかかわるということ。

それで、先生がおっしゃった先進地へいっぱい私たちは行ってきまして見てきました。その中で、例えばプロジェクションマッピングとか、あるいは自分たちがそこへ立てば上からいろんな映像が映ってくるっていう新しいのがありましたよね、先生。そういうものはこの中で使ってもらうことにしました。

それから、展示の中でこの山だけの地図を出すとおっしゃったんですけども、そうじゃなくて、やっぱり小牧山っていうのは、全国、あるいはもっと言えば京都という都との関係。信長がどうして京都へ向かっていったのかみたいな、あるいは全国との関係から信長がどういうふうに進んでいったのかとかいうことがもう少しわかるような展示にしてほしいということで、地図も、小牧山だけじゃなくって、もうちょっと広いものを見据えたものにしていただきたいというようなことですよ。

私たちが見てきたものをなるべくこの中に入れてもらうようにちょっとは発言しましたので。だから、全くゼロではなくて、そういうことをしております。

ただ、私も朝これを見せていただきまして、この地図も朝見に来て「えっ、これどこに建つの」っていうことから始まって、その下は大丈夫なのとかいうことで。

本当だったら遺構の上に建てることは基本的に無理ですけども、建ててしまうんだったら、あちこちの、大阪のほうでいっぱいやってますように遺構を見せてしまっただけで、大阪城もそうですよね、それでその上に建ててしまうということもあるので、本当だったらそこまでしていただきたいとは思ったんですけども、これは金銭の問題がかかってくるので強くは言えなかったんですが。せっかくだったら本当はこの下の遺構も見せてもらいたいなのというのはすごく強く。一部でもいいからのぞけて、この下にこういうものがあるよってなったら、何にもないところに建てるとおっしゃっ

たので。取っ払っちゃった跡のところに建てるので、それも無理かなということをおもひまして。

別ににせものの遺構をそこにつくることもないので、そのところに。穴掘ってトレンチ掘って何か出てきたら、そのすき間のところに出てきたらというところも見せてもいいかなと思うんだけど、本当にお金のかかることなので、そのところは余り強くは言えない。

それで、いろんなところを見てきたんですけれども、その中でいいなと思ったことはなるべく入れていただくようお願いしました。例えば山梨県の博物館だとか、それから福井のこども博物館なんかに使っていた、字を押して出てくるという、ありましたよね。そんなようなものはぜひとも取り入れていただきたいなとは思いますが、見ていたらそんなのに近いことを小野さんがおっしゃっていたから、もう少し具体的になってからどっちへ向かっていくかを見せていただきたいなと思って。

ただ、史跡センター、ガイドンスのための建物だっておっしゃったんですけれども、一番思うのは、小中学生をターゲットにされるんだったら、小中学生がここに入って、自分たちが住んでいるこの小牧はこんなすごいところなんだと誇れるような展示をしていただきたいというのが一番ですよね。ただこれがあるよあれがあるよというんじゃないくて。小中学生がそういう誇りを持てれば、一般のお客さんが見てもやっぱり、わあ、自分たちってこんなすごいところにいるんだっていうことを誇れるので。本当に一番の軸としてはそこをまずめどにして、そしていかに小牧山がすごいか。これは、発掘された小野さんたちの、あるいは小牧の市役所の方たちの本当に力だと思ってるんですけれども、小牧山がどんなにすごいのかっていうことがだんだんわかってきた。

それから城下町も、いわゆる信長の考えた城下町がやっぱり出てきたんですよ、あっちに。家康のつくった名古屋の城下町だとかあるいは駿府の城下町と信長の城下町ってやっぱり違うんですよ。その違いがわかるような展示をつくってほしいと。これは、どんどん新しい発掘があつて出てくるので、それはみんなプロジェクションマッピングで。あんなの安いつて言うんだけど、うちなんかがかかれば単位が一桁違うぐらいでできちゃうぐらい安くできるので、どんどん新しいものを見せて、発掘して今度こういうのが出てきたああいうのが出てきたっていうのを次から次へと入れてほしいということはお願ひはしておきましたので。

ただお城なんだけれども、お城はお城だけじゃなくて、信長の場合はその下に城下町をつくったところが新しいところですので、そういうものもきちんと見せていただくとありがたいなと思ったので。

そういうことは、先生、一応申しておきましたので、それにプラスアルファ何かお

っしゃるんだったら、ぜひ直接向こうに。

○入谷委員

要するに、基本設計はもうできちゃったわけね、中は。

○池田会長

ある程度できちゃったみたいなので。今日、図面はないんですけども平面。平屋っておかしいんですけども、完全な平屋ですね。上に建てない、層がないということで。その中で小牧山の周辺、小牧山の春夏秋冬という四季とか城下町の情景とか。それから、石垣は実際のものって言うと変だけど、いろいろつくってくださるそうなので、それを見せてくださると。

○入谷委員

もうできちゃってれば、僕らが言ったってしゃあないじゃない。

○池田会長

そうです。もうでき上がったものは見せてもらったので、せいぜい変えられるところはそういう形で申し上げておきましたので。

○入谷委員

城下町だけは模型ができるわけね。

○池田会長

違う。石垣だけが模型でできる。石垣は模型ができる。城下町は模型も何にもなかったの、それはプロジェクションマッピングで映してくださいと申しました。それしかもうしようがないんで。模型なんかつくったらえらいことですから。

お願いします。

○事務局

模型自身はそんなに多くは活用してないです。というのは、池田会長がおっしゃられたように、どんどん新しい発掘もされていくし新しい事実もわかってくるので。

模型にかわるような映像技術が、今は最新のものがいろいろ出てます。例えば先生がおっしゃられたプロジェクションマッピングであったりとか、ARであったりとか、いろんなやり方が。私もあちこちの博物館へ4月以降行ってきたんですが、いろんなやり方ができています。今後つくっていくまでにもっと最新の技術が出てくるかもしれません。最新のもの、なるべく飽きさせないでリピーターが来てもらって、なおかつわかってもらえるような施設を考えています。

なので、かなり映像を多用するところで自由度の高い中身になっています。映像を変えればイメージが変わることができるみたい。しかも、その中で自分が何かをすれば何か動くみたい。光をタッチすれば武将の絵が出てくる、光をタッチすれ

ば城下町が出てくるみたいな映像を使った形を考えていますので。すごい昔のジオラマをつくりますよ、点が光りますよってというようなやり方は今のところ全く考えてはいないです。

#### ○入谷委員

映像では文句なしだね。

あと、信長が関した例えば小牧と岐阜と安土と、三つが比較できるようなものも映像で。結局本人が、小牧の城下町はこうか、スイッチ入れかえると安土城が出てくる、どこが似ておってどこが違うんだとか。当然山と地形が違うから。みんな小牧は頭がないね、見えてないから。そういうことが行われれば、私は非常にいいんじゃないかと思う。

#### ○事務局

おっしゃるとおりの部分を予定してます。どこまでできるか微妙なところですが、できる範囲でそれはやっていく。

#### ○入谷委員

とにかく最新の技術を。文部省がかかわってとっても、かたいやつだけで終わっちゃうところが見てきた来た中であるから。

#### ○事務局

そういう意味ではかなりやわらかい。

#### ○西川委員

一ついいですか。

ある程度私たちというか、僕もその端くれとしては、ここが織田信長の関係するということで、今度史跡センターをこの史跡内につくることに関しては、文化庁との協議の中ですごく制限があった中でおさまっていくものとして考えているからなんですけれども、先ほど、これを機会に市民の皆さんにも御意見をと言うけど、一般の市民、僕が市民の立場で言うと、歴史館として上にあるんだけれども、あれはてっぺんにあるんですね。で、今度新しいこんな大きな施設をつくるならば、いつそのことここに市の歴史が全てわかる資料館であつたり博物館ができればというのが素人の考えだと思っんですよ。

先ほど先生がそういう要素あるかと言われて、それができないのが、文化庁との史跡の上に建つ制限がかかわってくるということですよ。

僕なんか単純に、これを別のところにつくるならば、信長的な今回のセンター的なものは第2部のほうにつくって、第1節のほうには小牧市の歴史にかかわることがそこで全部わかるようなものであればいいと素人は考えるんですね。何でこんな立派

なものをつくって、ここにはなくて上へ行かなくちゃいけないのという思いがあるんですね。

だから、そのところを市民にしっかりと上手に説明を。しっかり伝わらなければ。15万人のうち、ここは史跡の上に建つものでこの小牧山にかかわるものしか展示できないんだということをどれだけの人理解してくれるかといったら、私は、多分8割から9割の方は何でそんなというふうに思われる市民が多いと思うんですね。小牧山課か文化財係かどちらでもいいんですけど、その辺を上手にうまくやっていると。

マニアはすごく小牧山に集中していて、この間も整理券を配るのに大変でしたよね。それぐらいですけども、我がまち小牧の建物で誇りを持てるものにするために、意識をどう理解してもらおうかがすごく難しいかなと思うんですね。

昔、入谷先生がまだ現役だったころ、いずれはここに小牧山の歴史史料館をつくって俺がのんびり館長でっていうような話を伺ったのが20~30年前だったと思うんですけども、そういうときのイメージが多く市民の感覚だと思うんですね。

だから、あくまでも歴史館とここにつくる史跡センターとの意味合いの違いとか、そのかわりこんなすばらしい小牧が誇るべき内容があるんだよということをうまく説明していかないと、また図書館と同じような意味合いで勘違いされてしまう要素も強いことを感じましたけどね。

○池田会長

どうですかね、事務局のほうは。

○事務局

今まで市民の皆さんに基本構想の段階では広報に載せてお知らせはしてたんですけども、こんな雰囲気施設をつくるんだよということが基本構想なので、正直市民の皆さんにわかりにくかったなというのは思っています。

今回、基本設計になると、こういう施設をつくれますよとようやくお知らせすることができるようになって、市民の皆さんも、広報とかホームページを見る方も、わかりやすくなった、意見が言いやすくなったかなと思っています。

それで、今後さまざまな媒体を通じて、新聞とかにも多分載っていくと思うんですが、そういう中で、例えば広報なんかだと、「何で小牧山につくるの」「こういうふうです、ガイダンス施設だからですよ」今、西川委員がおっしゃられたように「どうして郷土資料館にできないの」とか、Q&Aとかも含めた中で市民の皆さんにお知らせする形をとっていけば、また意見もいただきやすいかなとは思っています。

恐らく西川先生が言われたように、「何で喫茶店、中につくらないの」という意見も出てくるかと思えます。そういうのもあらかじめQ&Aみたいな形で、「この中

に喫茶店はつくれないんですよ」っていうようなことをお知らせすることができればなどは思っています。

以上です。

○池田会長

ありがとうございます。

ほかにありますか。

○入谷委員

意外と構造物は変わらんからね。何をしゃべっておるのかわからんかもしれんけど。

本当に何度もいろんなところを見てきておるんですよ。距離的に遠いところは行けてないけれども。

今、いろんなところにそれぞれ専門家が入っておもしろいものができてる。田んぼのことだったらあそこの博物館、湖水のことなら琵琶湖の近くとか、いろいろなところにいろんな博物館ができてきて、やはりみんな国がかかわって、お金は大部分が地元が持ってるみたいだね、ああいうところは。今度は国もかかわる、県もかかわる、市がかかわる。そういう中だから、皆さん、さっき西川先生から出てたように、マニアの人たちは、この前も500人ぐらい来てみえて、その前は700人来てる。「佐久間」という字が出ただけで700人集まる。今度は虎口が出た。そのために500人も人が集まってくるという。それが史跡センターで再現できて、みんなが見てなるほどな。たいなと思って、なぜこれは東向いとるんだというような簡単なことから、みんなから見て「ああ、おもしろかった」ってならなきゃいけない。

それともう一つ、ただ史料を並べるだけならば今の歴史館をもう一遍、作りかえはいかんけれども、中身だけ変えりゃ置けるわけね。それをガイドンス施設ということを知ったから、ああそうかと。

例えば長野県の博物館に行くと、子供たちが本当に真剣になっとる。

大阪に行くと、私もう年をとってましたので、危なっかしい、子供たちが階段をびゅーっと走っていくので怖かったけれども。

福井県に行ったときは、銀行を改良したわけだけでも、並べてあるだったけれども、そこの中に、映像で亀甲文字を手の上に並べて。上から亀甲文字が映るんです、ばらばらに、半分ずつ切って。それを7～8人の子供たちが合わせると、亀甲文字の中の漢字が一字になるとかいう遊びができて。あれで私は初めて、白川静という人は世界一の漢字学者。中国よりもあの人のほうがすごい。そういう人が、亀甲文字、ああいうことにかかわったりして。文字が子供の手にてきて、子供たちが合わせる。そうするとその字を、学芸員かただの店員か知りません、学芸員だと思って見てました



けれども、この字はこういうふうに読むんだよ、いいおもしろい字が出てきたねって言って、あれで亀甲文字が手の上に乗るといふ。これが新しい映像。僕はあそこで子供には一番おもしろいものだったと思います。

それから、素粒子。福井県でノーベル賞をもらった人がいて、あの素粒子がわーっときて、びっくりしてこうやると素粒子が帰っていく。そのまま頑張っておると透けて抜けていく。もう10年ぐらい前になりますけれども、カミオカンデが話題になったときに、私は小学校1年生から6年生までの子供たちに話したら、子供たちが太陽から来るそんな光に物すごい興味を持って、かっとみんなが見ておってくれる。それが、私は自分ではしゃべっても意味はわかれへんけれども、あそこへ行ったら素粒子がふわっと自分のほうへ向かってくるという。3Dというかああいう映像施設だった、あそこはね。

そういったことで、そうたくさん要らんけど、小牧だったらあそこに、信長が「さあ戦に行け」といって立ち上がるシーンが例えば映像で出てくるとかね。先ほど言ったように、今の岐阜城の一番問題になっているところだとか。そういったところが映像で見えるようなガイダンス施設。

犬山の青塚の古墳、何にも感激するものがあれせん。そういったことがイメージにあるので、ガイダンス施設といっても、今言ったような、やっぱり子供たちにたとえ15分でも魅せるものが欲しい。

それとさっき言った、ここにつくると、お城が何のためにあるのか。上へ行って高いところから見えるだけだが。今は写真が張ってあるだけですから、ああいうところの工夫も私はしなきゃいけないんじゃないかと。

こちらのこれは市の予算でやらなきゃいかんわね。ガイダンスに合わせて、例えばあの上からお城、城下町がわっと出てくる、犬山城が出てくる。小牧山は、信長ときは一番最終目標は犬山を攻める、そして岐阜を奪うというところをあそこでわかってほしい。

今のままでは城があるだけだもん。あと、子供たちには余り興味がない壺だとかいったものが並んでおるだけだもん。やっぱり、今度ガイダンスセンターができれば、何か関連していった施設に中身が変わらないかどうか。

いろんなこと、言いたいことがいっぱいあるけれども、言う機会がなかったわけね。それこそ、もう今は古いのは私一人ですので、私が今まで足らなかったと思います、そういう努力は。

そういったことで、ぜひ、間に合はんことはだめですけども、間に合うことであればどんどん。今年新しいメンバーができて、そうそうたるそれぞれ自分の分野を持

ってみえる人たちが集まられたので、大いに期待したいと思います。

以上です。

○池田会長

ありがとうございました。

今後、小牧山の建物の外はいいんですけど、中に何を展示するかについて、やはりもうちょっと指導とかいただけて、私たちの意見も少しこの中でまとめれたらいいなと思っていますので、できたらそういうのがあれば資料をいただければありがたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

ほかに何か御意見ございますでしょうか。

○藤岡委員

最後ですが、先ほど入谷先生からもありましたように、先進地視察みたいなことが少しでもこういったところに反映できたらなという思いがあるので、本年度全くやっていないということもあるので、ぜひ先進地視察を入れていただくようお願いしたいなど。

たまたま今年については予算が来年度送りになっちゃうかもしれないけど、消化しないと、要らないんだったらいいよって切られていく対象になっていくとまたこれは問題だと思うので、ぜひお願いしたいなど。

いろんなものの復元だとかいうのであれば、それをどこまでにするかっていうことで先進地などもありますし、それからマメナシの関係で行くのであれば、ほかがどういうふうにやっているのかだとか。花の時期に合わすということならそれ相当で年度初め早々になってくるだろうし。どちらにしても、検討していただけるとありがたいなと思いますのでお願いします。

○池田会長

その件につきまして、事務局からお願いします。

○事務局

先進地視察は、過去は1泊で行っておりました。当然行き先としては小牧の文化財に関係するものを、小牧のためになることを学びに行くという感じで選んでおりましたが、なかなか最近はこれというものがなくて、先進地の視察先が見つからなくて去年も行けなかったとか、本年度も行けないんですけどもありました。

先ほど現地調査のときにもお話しさせていただいたように、マメナシのほうにここ近年動きがありましたので、事務局の本当に案の案のような状態ですけれども、多度のイヌナシ、国指定の天然記念物になっておるかと思いますが、こちらを見学に行けたらなと今考えております。そうすると、花の咲く時期が恐らく4月中旬下旬になる

うかと思しますので、そのあたりで。年度初めで逆にまたお忙しい中ですが、それプラスほかにもということ考えてみたいと思います。先方もありますので、また日程調整させていただきながら決めていきたいと思しますので、よろしく願います。

そのイヌナシが桑名市ですので、その近辺でもしこういうものがあるよと、こういったものも小牧の文化財にとって参考になるよというものがありましたら、またお教えいただければ助かりますので、よろしく願います。

○池田会長

ありがとうございました。

ということで、4月になって先進地を見学というか視察に参りたいと思しますので、少しまた予定を。

ここじゃ遅いですよね、決めるの。

○事務局

また3月上旬なり皆さんに伺いながら。こちらでまず行程を組みますので。

○池田会長

花の咲く時期がいつか具体的に今わかりませんので、その時期を狙ってとりあえず行程を組んでいただいて、なるべくたくさんの方に参加していただきたいと思しますので、できるような形でとりあえずつくっていただきたいです。

ほかに何か御意見。

○村松委員

マメナシの先進地なんかないので、小牧は小牧でやっていくしかない。

○事務局

だめですか。

○村松委員

手を入れ過ぎちゃって、全然当てにならないので。

○事務局

逆に、手を入れ過ぎちゃったりとかしてあれば、そこにならないよなということで見させていただくのも一つの手なのかなと。失敗例かどうかはわかりませんが、そういった面でも参考になるのかなとは思っておりますので、行きたいなどは思っておりますので。

○池田会長

質問していいですか。マメナシって県指定になるっていう話は消えたんですか。

○事務局

小牧は県指定です。

○池田会長

今もう県指定になっていますよね。だから、そういうのはやっぱり小牧は守らなくちゃいけないところなので。

○事務局

小牧市の土地なものですから、所有者が管理していくということがありますので。

○池田会長

小牧市が所有者ですからね。そういうふうにならないようにはどうするかということで多度だと考えていらっしゃるんですけども。

先生、いいところがありましたら。マメナシとかそういう植物保存の方向というところでちょっとありましたら。

○村松委員

いいところなんかないので、小牧は小牧で考えて守っていくしかないんです。それは僕やっていきたいと思っておりますので。いろんなこと、僕全国見て回っていますので、それは十分できますので。

○池田会長

じゃ日程等と場所についてよろしくお願ひいたします。

○西川委員

今の件は、例えば公園化するということの是非は、それはそれで先生がみえているから。

僕のイメージだと、尾瀬ではないけれども、マメナシの地面を傷めない形の。例えばそこが皆さんが訪れて見やすい環境としての一部にもするとすると、尾瀬のように、例えば靴の裏から外来種が入るといかんということで皆さんに呼びかけたりしてやっているけれども、ちょっとずつ入っていますよね。それと、人がたくさん来たり、当然マナーの点でお菓子の袋が落ちるとか、そんなことを懸念されて、もちろんそれをいかにつとめて皆さんに大事にしてもらうかということですけど。

人が訪れることは皆さんに知れ渡っていいんですけども、その功罪的なことがいろんな他の地域の例でどうかという。見やすく、公園らしくするがために傷んでしまうというか。

僕がたまたまその辺の調査に行ったりしているけれども、大きな古木の立派なやつが腐ったりして、切ったりしていますよね。そのかわり、若い苗を周りに植えて補充していて、何とか立派な群生地的なところを保とうとしていますよね。その辺のところの、僕なんかでいうと補充することがいいのかどうかとか、そんなことも含めてこの専門的な意味合いでちょっとどこかで意見交換できるといいかなということを思

うんですけれども。

○入谷委員

今の問題で、先生がやられた、大草の小学生を使ってしゃべられたため池の関係で、そのマメナシの辺から太良池の上下のあたりを風致地区にするというのは、地元がやっているのか教育委員会がやっているのか。農務課かね。

○事務局

基本的に風致公園という話は今一生懸命考えている、検討している最中で、みどり公園課が主体となってやっている。ただうちは、その風致公園のエリアをつくろうかな、考えようかなと思っておる中にマメナシの範囲が入っているので、保護する立場として、極端なことを言えば、高いフェンスを立てて誰も入らせなくて、きちんと管理だけしていくのが一番の保護かもしれない。それは究極のところです。その次に、ちょっと低目のフェンスを張って遠くから見てもらうだけ。最後は、中に例えば木の通路を尾瀬のようにやって通っていただくのがいいか。その辺のところは保護としてのスタンスからこちらのチームはかかわっていくことにはなっていくかと思えますけど、まだ全然、こうしますああしますという話ではなくて、どうしましょうかという検討をみどり公園課が地元の方と一緒に話し合いをしています。だからどうだということまでは全然。

○入谷委員

まだいってないんだね。

○事務局

いってないです。

○入谷委員

あのあたり行かれたら、すぐ下に池があつて。西川先生が小学生を使って、大草か。

○西川委員

大城。

○入谷委員

あれを昨日からずっと読ませてもらってったんだわ。非常におもしろいことが書いてあって。それで、今の小牧の3分の1近くのため池がああたりに残っていて、そのため池で百姓をやっている。足らん分は愛知用水から上流で入れとるんです。今、百姓が百姓をやっておるところは、大草と大山と。北里のほうはどうか知らん、しばらく行っておらんから。

○西川委員

篠岡地区ばかりですね。

○入谷委員

大草と大山の一部だね。大草が一番。

○西川委員

今はため池も愛知用水の水が入っています。

○入谷委員

全部入っておるかね。まあええわ、入っても。ため池があるから。

で、そのため池で百姓をやっているのは間もなく見れなくなっちゃうんだわ。だから、それこそこれもある意味では文化財として指定してもいいような一つのいき方だと思うんだわ。これ、先生は民俗をやられるからそういうことをあれだけども。

いわゆる民俗的に小牧の市民が何をやって食ってきたか、その生活の実態が明確に見えるんだわ。あの写真、先生のあれで見てると。ああ、ここは残さないかんと。わしは初め大山を考えておったけれども、一番残すならば今のところがマメナシもある、ため池もある、そしてあのあたり、百姓としても秋になると稲穂が金色に輝いて非常にいい。そういった意味では僕はぜひ。これ農務課がやられるのか教育委員会がやるところなのか。マメナシは教育委員会だよな。

○事務局

みどり公園課です。

○入谷委員

そういうのがあるわけね。ぜひここはそういう田舎風景を残す。

○池田会長

文化財として。

○入谷委員

いい言葉が。

○西川委員

多分、よくあるのが里山の関係で棚田百選とかいう点でPRして、イコール観光資源としてまちおこしをしているのはありますよね。そういうので、じゃため池百選とかあるかというとなかなか難しいんですね。ほとんどの要するに谷合いの村はみんなどこもあつたはずですから。

○入谷委員

あそこには違井那という名前が残つとるんだわね。要するに今先生がおっしゃったあれが違井那。九段所は消えたのかもしれんけれども、あちらも、もうこれは団地の中に入っちゃつとるか。

○西川委員

みんな桃花台になってますね。

○入谷委員

入ってるね。違井那のほうが菖蒲園をやっておったところか。

○西川委員

そうです。

○入谷委員

そういうところと、それから今の太良池から上池下池、こうやってきて下流まで八田川に沿っていくところ。あのあたりも非常にいい農村地帯を残す。春日井はどっこもあれへんでね、今はああいうところ。残せれへん。しかもあそこはすぐ隣に桃花台という団地があるから、ああいう人たちが、田舎のでも、そういう人たちがあそこを歩いてもらうと。

そういった意味では、大草はマメナシの保存のため池農業を残すところ。今はもう愛知用水が上流から入ってきておるけれども、要するに全部ため池だったところだね。そういう自然で。

今、池田先生のところに。農家の中に、柿渋で渋をとってその渋を売っていた。その道具が一番最初僕のところへ来たけれども、僕は「こんなものは民俗文化財になるのか」と言っ、「僕が調査に行きますわ」と言っったけど、行かなんだんだわ。そうしたら、先生のところへ行って、先生のところが熱心に調査をやって、そうしたらそこへ全部道具類が寄贈されちゃったんだ。だで、あれも先生のところから市へ指定してほしいってやれば。指定しなきゃいけないものなんだわ、あれ。

○池田会長

えっ、そうなんですか。それは大変だ、探さなきゃ。

○西川委員

平成7、8年のころかな。

○池田会長

20年ぐらい前の話ですか。

○西川委員

ええ。造形大学のスタッフで、大草の柿渋を中心に。

○池田会長

それはやりました。

○西川委員

そのときに。

○池田会長

私は呼んでもらえなかった。

○入谷委員

ああいうのを、例えばお祭りで竹細工をやっとるよね、ああいうときに、柿渋やっておったんだよっていうところをどこかの会館を借りて展示するとか。

○池田会長

先生、それが小牧の歴史なんですよ。そういうことですよ。

だから、小牧山のあのセンター、下のところにできるのは、あくまでも小牧山。で、上のほうにある歴史館がそれを全部やればいいんですよ。やっぱりすみ分けないと無理です。

上のほうに登ってもらって、まず小牧山に興味を持ってもらって見てもらって、上の歴史館で小牧ってこういうふう発展したのかってもうちょっとわかってもらえるような、すみ分けをしたものをつくらないと両方ともが滅亡してしまいますので。下もだめ、上もだめになっちゃうと思いますので。上の歴史館の中にどういうふう保存するか、どういうふうに見せるかということは、今後ここの中で考えなきゃいけないし。

それで、柿渋をつくってたというところも保存したいとか歴史の中に残したいんだったら、どういう形であるかも今後ここの中で検討するならば検討しなきゃいけないことだと思いますので。

今日は盛りだくさんでもう無理なので、とりあえずは今後の方針としてそういうものも見ていきましょうという形で、今回はよろしいでしょうか、先生。

また現地調査のときに伺いますので、具体的にどうするかということは、今後また事務局と話していきたいと思います。

済みません、長々と。司会が下手くそなもので、進行がうまくいきませんでした。

それでは、今日の予定の議事は終了したと考えさせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

ということで、進行は事務局へお返ししますので、よろしく願いいたします。

○事務局

会長、ありがとうございました。

長時間にわたり、委員の皆様にはどうもありがとうございました。

これをもちまして、平成27年度第2回小牧市文化財保護審議会を閉会させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

[終]